

狭山にゆかりのある文化人紹介 その15

やまもと のりただ

山本 則直

能楽師 狂言方(大藏流)

1939(昭和14年)～2010(平成22年)

1. 経歴・狭山市とのかかわり

三世山本東次郎の二男として東京都杉並区和田に生まれる。本名倫士(つねお)。兄の四世東次郎・弟の則俊とともに“山本三兄弟”として知られる。父に師事し、1944(昭和19)年、「以呂波」のシテ(主役)で初舞台。

1957(同32)年より日本能楽会会員になる。若手狂言師の同人組織「狂言新の会」を結成する。新作能や復曲に参加、海外の公演も多い。長男の泰太郎・二男の則孝・孫の凜太郎も狂言師として活躍する。

1965(同40)年、狭山市水野に転居。1971(同46)年に泰太郎が、1973(同48年)に則孝が誕生。泰太郎・則孝兄弟が狭山市立南小学校に在学中、狂言鑑賞教室を催し、国語教科書に採用された「附子」を親子(主人:則直、太郎冠者:泰太郎・則孝)で演じ、話題を呼ぶ。

狭山市に関連した狂言「入間川」があることから、狭山市立水野公民館が則直と東次郎を講師に「水野実年大学 狂言『入間川』」を開催。講座終了後、受講者から要望があり、有志により「狂言入間川を観る会」が発足する。そして1993(平成5)年、狭山市市民会館で第1回狂言鑑賞会が開催された。以来コロナ禍を除き中断なく続けられ、2023(令和5)年3月には第27回が開かれた。狂言鑑賞会は狭山市民の恒例行事となり、シニア世代を中心に大きな期待と温かい支持を得ている。



兄の東次郎(左)と宗論を演じる

2. 主な業績

1964(昭和39)年に芸術祭奨励賞を、1976(同51)年に芸術選奨新人賞を受賞する。25歳の若さで芸を認められ、1992(平成4)年に重要無形文化財に指定される。さらに2005(同17)年に芸術選奨文部科学大臣賞を、2007(同19)年に紫綬褒章を受賞する。そして、泰太郎・則孝・凜太郎の「狭山三人組」は父則直の偉大な遺訓を継ぐべく、狂言鑑賞会・狂言講演会・狂言鑑賞教室を開催し、伝統文化の継承と伝承に尽力している。

3. 特筆

大名狂言での傑出した則直の芸は、多くの観客の心を掴み、熱心なファンを生んだ。彼の逝去を悼んだ歌人・水原紫苑さんは、詩集『武悪のひとへ』で次のように芸風を偲んでいる。

「2010年4月23日、一人の能楽師が逝去されました。享年71。狂言方で、確固たる身体に基づいた、剛直な芸風の聞こえ高い人でした。豪放磊落にして純粹無垢なお人柄に魅了され、迫力あふれる舞台を生きる支えにしてみました」(「あとがき」より)

文責:鈴木 強

編集後記

★3年ぶりに開催された市民芸術祭。成功裏に終わり、展示も力作ぞろい、「世代を超えて」、企画公演「かるた de さやま」とも、出演者は元気に3年分の想いを舞台に懸けた姿。「かるた」を壮大なファンタジーに構成した横山さんに感謝。来場のお客さんもマスクはしていても、ほっとしたなごやかな気分が見られた。

★体力的に今年はお手伝いできませんでしたが、役員の頑張りにも感謝です。私も3年ぶりに1月に開催された入間市民謡協会の発表会に出場しましたが、2割の方が欠席でした。コロナの影響でしょう。

★もうすぐ「桜まつり」ですが、東京の開花が3月中旬とか。4月の開催が今年限りとなるのか? 私たちの時代は、4月8日の入学式が満開だった。

(高沢正夫)